



TITLE:

京大広報 No. 308

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 308. 京大広報 1986, 308: 57-60

ISSUE DATE:

1986-03-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209374>

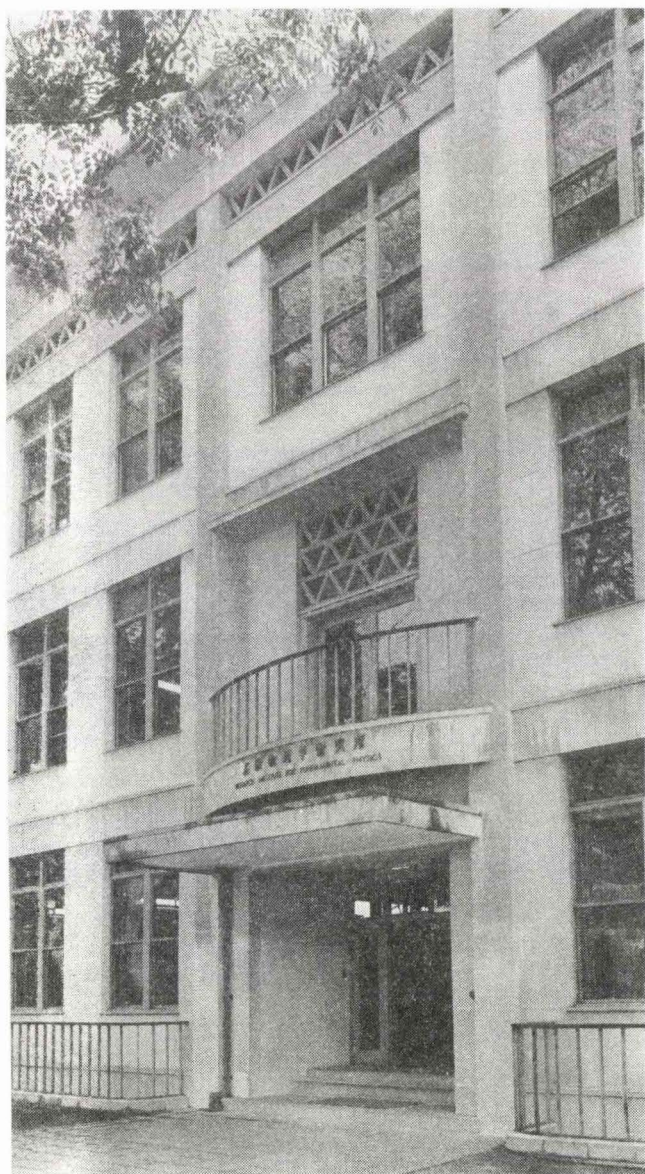
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 308

京都大学広報委員会



基礎物理学研究所 一関連記事本文58ページー

目 次

昭和61年度入学者選抜学力試験 （第2次学力検査）の実施	58
昭和61年度医療技術短期大学部 入学試験の実施	58
＜紹介＞	
基礎物理学研究所	58
計報	59
日誌	59
＜随想＞	
いつまでつづく 名誉教授 伊藤 義教	60

＜大学の動き＞

昭和61年度入学者選抜学力試験 (第2次学力検査)の実施

昭和61年度入学試験(第2次学力検査)は、3月4日(火)と5日(水)の両日に実施された。各学部別の受験状況は次表のとおりである。

なお、合格者の発表は、3月18日(火)午後、学部ごとに行われる予定である。

学 部	募 集 員	志 願 者	受 験 者	欠 席 率
文 学 部	200人	632人	618人	2.2%
教 育 学 部	60	138	137	0.7
法 学 部	400	878*	864*	1.6
経 済 学 部	230	710**	697**	1.8
理 学 部	291	794	773	2.6
医 学 部	120	373	348	6.7
薬 学 部	80	148	144	2.7
工 学 部	995	2,027	2,012	0.7
農 学 部	310	657	647	1.5
計	2,686	6,357	6,240	1.8

(注) 外国学校出身者のための選考試験を受けた者
40名(*)と12名(**)を含む。



受験者心得の掲示に見いる受験生(3月3日)

昭和61年度医療技術短期大学部 入学試験の実施

医療技術短期大学部では、3月4日(火)と5日(水)の両日に昭和61年度の入学試験を実施した。受験状況は次表のとおりである。

なお、合格者の発表は3月14日(金)午後に行われる。

学 科	募 集 員	志 願 者	受 験 者	欠 席 率
看 護 学 科	80人	218人	187人	14.2%
衛生技術学科	40	238	204	14.3
理学療法学科	20	137	119	13.1
作業療法学科	20	78	67	14.1
計	160	671	577	14.0

(医療技術短期大学部)

＜紹 介＞

基礎物理学研究所

基礎物理学とは、素粒子から宇宙に至る物質界の基本的構成原理をふまえながら、常に物理法則にかかわる理論の深化と一般化を求め、新たな物理現象に妥当するより高度の概念やより普遍的な法則性を探究しようとする学問である。

したがって、本研究所の研究部門の名称も、主たる研究領域を大まかに表示するものであって、所員の研究活動に研究部門の間の壁はない。また他の大学や研究所との人事交流が積極的に推進されてきた結果、どの研究領域においても、その時代の最先端の研究課題が新鮮な意欲をもって取り上げられてきた。研究所発足(昭和28年8月)の当初から天体核物理学、生物物理学、プラズマ物理学のような新興の境界領域の開拓にも先駆的役割を果たすべく大きな努力が払われてきた。

これらの特徴は、物理学という学問の本質から自ずから導き出されてきたものといっても過言ではない。

各研究部門の研究活動が、研究部門相互の交流はもとより、その多くが本学内外の研究者との協力の下に行われてきたことも、全国共同利用研究所としての本研究所の大きな特色である。

すなわち、所員は本研究所を中心とする様々な共同研究に積極的に参加し、所外の研究者とともに研究計画を提案・推進する役割を果たしている場合が多い。その研究計画(研究会)には次の種類があり、年間20件余のプロジェクトが採択されている。①長期研究会(広いテーマにつき年間を通じて共同研究を行うもので、重要かつ基本的なテーマに関しては数年間にわたり継続される場合もある)、②短期研究会(絞られたテーマで数日間に集中して研究討論が行われる)、③モレキュール型研究計画(数名の研究者が滞在し、具体的な

課題について共同研究が遂行される)。

またこれらの研究会のほかに、研究者の交流のためにアトム型研究員(1~2か月程度滞在)や基研研究員(1~2年滞在し、湯川財団研究奨学生を兼ねる)の制度があり、本研究所の活動に寄与している。研究計画・アトム型研究員は、年2回全国的に公募し、研究部員会議及び運営委員会において審査・採択している。

本研究所の研究活動は、以上述べたように全国的規模の共同研究と密接に結びついているので、研究上の業績も所内のものと所外のものとに単純に分離することはできない。しかしながら、この30年余を通じて基礎物理学の分野において国際的に輝かしい評価をえた先駆的研究成果の多くのものが、このような本研究所の幅広いアクティビティによって支えられてきたことは、本研究所の

存在意義を考える際に重要なことである。

本研究所は、さらに基礎物理学の国際交流の中心的機関としても大きな役割を果たしており、国際会議の共催・後援をはじめ、独自の国際研究集会(Kyoto Summer Institute)を昭和53年以降毎年主催している。また、年間を通じて常時外国人研究者が滞在し、短期間の外国人学者の訪問も数多い。

このほか、初代所長故湯川秀樹博士の業績等に関する貴重な歴史的資料が「湯川記念室」(昭和60年2月開設)に保存されている。

最後に、本研究所の将来計画について述べておく。前掲の機構図に現在の研究部門の編成を示したが、6部門の規模をもってしては、今日の基礎物理学の学問体系の多層化と理論の高度化、並びに全国研究者の質的・量的両面にわたるアクティ

ビティの向上に対応するには、極めて困難である。したがって、本研究所では研究部員会議のもとに将来計画委員会を設け、本研究所の必要とする拡充整備の具体的構想を取りまとめてきた。

この構想に基づき、時代の要請に応じて非線形物理学、素粒子宇宙論、量子重力論などの新領域を加えて研究所の整備をはかることが、全国共同利用研究所としての本研究所の役割から強く望まれている。

(基礎物理学研究所)



計 報

岡田 辰三(本学名誉教授・工学博士)

2月26日逝去、90歳。大正10年本学工学部卒業。昭和15年本学工学部教授就任、33年退官。その間工学研究所長(27年~28年)、工学部長(28年~30年)、教養部長

(31年~33年)を歴任。41年勲二等瑞宝章受章。専門は電気化学。

中村 貞美(防災研究所附属桜島火山観測所技官)

3月10日逝去、30歳。昭和49年から防災研究所附属桜島火山観測所勤務。

日 誌

(1986年2月1日~2月28日)

2月4日 保健衛生委員会

7日 環境保全委員会

✧ ベトナム社会主義共和国 Cantho 大学 Pham Són Khai 学長ほか1名来学、総長及び関係教官と懇談並びに学内施設見学

19日 国際交流委員会

24日 発明審議委員会

26日 創立七十周年記念後援会助成金選考委員会

28日 附属図書館商議

✧ 総長、大学院生協議会と会見

